

石巻市子ども読書活動推進計画（案）に対するパブリック・コメントの募集結果及び意見に対する市の考え方

< 提出者数 4 名、提出件数 1 6 件 >

※ 頁は、パブリックコメント募集時（修正前）のものです。

No.	御意見・御提言の内容（要旨）	意見に対する市の考え方及び計画の修正点（下線部）
1	<p>○市図書館の利用状況について 市図書館の利用状況（過去5年間の年代別、地域別）の実態を市報等に掲載してほしい。 また、その傾向や実態についてはどのように考察し分析していますか。</p>	<p>○本推進計画の資料編として、下記の通り追加掲載し、冊子及びホームページにて公開します。 【資料-7】市図書館における過去5年間の子どもの利用状況の推移</p> <p>○p13の現状と課題に、分析結果を下記の通り追加します。 キ 市図書館における子どもの利用状況の推移 利用人数については、平成14年度の14,225人に対し、平成18年度は7,938人と減少しています。移動図書館車の廃止による6歳から11歳までの利用人数の減少が主な要因です。しかし、移動図書館車の機能を補う「学校への団体貸出」の拡大により、児童書の貸出冊数は、平成14年度の106,578冊に対し、平成18年度は113,609冊と増加しています。「学校等への団体貸出」の一層の充実が課題です。</p>
2	<p>○市図書館の移設について 市図書館の利用に当たって、交通の便、駐車場の点から利用する人も不便ではないかと思えます。従って人が集まりやすい場所として、市庁舎として話題の駅前（さくら野）に図書館の移設はどうでしょうか。（市外から人々の利用も多くなると思えます。親子の利用という視点も考えて）</p>	<p>○さくら野については、公共施設に活用する方向で、現在調査中です。今後、調査結果を精査した上で、その利活用のあり方について検討、議会に示し、議論していくこととなりますので。いただいた御意見は、本推進計画に反映させることはできないものと考えます。</p>
3	<p>○読み聞かせボランティアについて 読書活動の推進に関連して、（読み聞かせ）ボランティアとして、小学校の保護者等による活動が行われていますが、学校側の理解と連携が必要です。その活動の有効性を確信しているので、出来れば市内全域の活動を期待しています。</p>	<p>○学校側の理解と連携については、p10に示す「学校関係者に対する研修・啓発」により、理解を促すと共に推進機運の醸成に努めます。また、市教研図書館部会や校長会、教頭会等の機会も活用して、推進機運の醸成のための啓発活動に努めます。</p> <p>○学校における読み聞かせボランティア等の活用は、P9に示すように現在、小学校で65.1%の活用状況ですがその拡大に努めます。そのために、p10に示すように「地域のボランティアの発掘と活用の推進」に努めます。具体的には、p16に示す「読み聞かせボランティア養成講座」を平成20年度に開催し、読み聞かせボランティアの養成とスキルアップを支援します。</p>
4	<p>○学校図書館等の整備、充実について 文部科学省では、「新学校図書館5ヵ年計画」を策定して推進するようですが、市としても多様な角度から図書館利用の実態を適切に把握し、市図書館としても学校図書館へ側面的に支援する必要があると思えますが如何でしょうか。</p>	<p>○p10に示すように「新学校図書館整備5ヵ年計画を基本としながら」計画的な図書整備に努めます。</p> <p>○市図書館からの支援については、p10に示すように「市図書館による団体貸出の充実」、「市図書館と学校図書館との情報交換」、「良書選定のための情報提供」及びp15に示すように「図書館職員の学校訪問、児童生徒の図書館訪問による連軽・協力」等に努めます。</p>
5	<p>○推進計画の具現化について 石巻市子ども読書活動推進計画（案）は、全体的に構想として適切であると思えます。推進計画をどのように具現化するかが問題となります。市図書館としても多様な活動を展開しているようですので、市民に対して一層の情報提供をお願いしたいと思います。</p>	<p>○推進計画の具現化については、【資料-3】実施体系図に示すように、76の推進方策を推進する担当課を明確化すると共に、p17に示す「石巻市子ども読書活動推進委員会」に各担当課の推進状況の把握と課題解決への機能を持たせること等で実効性の高い計画を目指しています。</p> <p>○図書館の活動の情報提供については、p14の「推進の方策」を下記の通り修正します。 図書館だよりやホームページ、市報等の広報誌を活用し、行事案内や図書の紹介等の情報提供の充実に努めます。</p>

No.	御意見・御提言の内容（要旨）	意見に対する市の考え方及び計画の修正点（下線部）
6	<p>○ブックスタートについて 乳幼児健診での啓発活動は、特に重視していただきたいものです。これまでに実践されていなかったことを残念に感じておりました。仕事に就く母親が増えている現状から、母子の密接な乳幼児の期間にコミュニケーションのひとつの方法として「絵本」が存在することをより多くのお母さんに知って頂きたいと思えます。</p> <p>また、母親が仕事に復帰した後、子どもに一番関わる「祖父母」への啓発も重要であると考えます。子どもに「本」や「本のある環境」を与える重要性を知る機会の提供を検討していただきたいと思えます。</p>	<p>○乳幼児期の読み聞かせの推進は、本計画の中でも視点として位置づけ、重視しております。ブックスタート活動の理念の具現化を目指し、健康管理課と図書館及びボランティアとの連携・協力により推進に努めます。具体的には、平成20年度の乳幼児健診時（3・4ヶ月検診時）において、保護者への啓発のための冊子「絵本のある子育て」（こどもの本童話館グループ発行）を市内の対象となるすべての子どもの保護者に手渡す啓発活動を実施します。</p> <p>○計画に示すように、乳幼児健診や子育て支援センター、育児サークル、家庭教育学級、市報等の広報誌等さまざまな機会を捉えた保護者への啓発活動に努めます。その際、保護者に加え、実際に子育てに関わる「祖父母」への啓発も意識した推進方策の実施に努めます。</p>
7	<p>○民間団体ボランティアの育成・ネットワーク構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館、市教育委員会が中心となって牽引。 ・息が長いボランティアを可能にする人材教育のための環境整備を希望。 ・各学校ボランティアの現状を踏まえた計画的な上質の学びの機会を希望。 ・一時の流行で終わらせないための生涯学習と生涯継続可能なボランティアを養成するため、経験を積んだ外部講師からの継続的指導を希望。 ・学校ボランティアと学校の橋渡しの役割および各学校ボランティアや民間団体のネットワーク構築の主導的役割を希望。 	<p>○p16に示すように、読み聞かせボランティアの養成やスキルアップを目的とした研修会や講座、交流会等による学習機会の創出に努めます。また、同じくp16に示すように、民間団体やボランティアのネットワークづくりを推進し、学校、幼稚園、保育所、乳幼児健診等における読み聞かせボランティアの派遣や図書館や公民館等におけるボランティア研修会等への派遣を推進する仕組みづくりに努めます。</p> <p>○具体的には、平成20年の6月から7月にかけて外部講師による「読み聞かせボランティア養成講座」を4回開催します。そして、参加者、参加団体を核としたネットワークづくり（読み聞かせボランティア、ボランティア団体の人材バンクへの登録と関係機関への情報提供等）に努めます。</p>
8	<p>○ボランティアへの支援について より充実した活動を目指すべく情報提供・合同研修会の促進を図るという支援には、期待が高まります。ボランティア団体では、セミナー講師等の情報不足、また実施予算の問題など、なかなか実現できない現状があります。合同研修会などの学習機会の提供を切望します。</p> <p>また、現在の各学校での活動情報の提供やボランティア団体同士の交流（情報交換、研修会等の橋渡し）の推進も希望します。</p>	<p>○各学校でのボランティアの活動の実態把握のためのアンケート調査を実施し、情報提供に努めます。また、活動しているボランティアの了承を得る前提で、人材バンクへの登録も検討していきます。</p>
10	<p>○図書の整備、充実についての課題について 図書館利用時間の拡大や図書館本整理時の各施設（地区憩いの家等）への図書の提供、図書館分館の利用の充実（利用者への広告周知、時間拡大、貸出冊数の拡大等）、ボランティア団体等へ「お話し会」などの開催時の貸出冊数の拡大等を希望します。</p> <p>図書整備に努めるとありますが、合併後各所で予算が削られています。図書館主催の「クリスマスおはなし会」で参加した子どもたちへのささやかなプレゼントの予算さえ削られている現状を踏まえるとどのように努められるものか正直懸念されるところです。</p> <p>図書館の分館毎に広報誌が無くなり、地域に密着した発信が出来なくなりました。活動PRの場を作っていただき、利用者の拡大を図っていただきたいと思えます。</p>	<p>○図書館利用時間の拡大については、利用実態を把握し、効率的なサービスのあり方を検討していきます。</p> <p>○図書館本整理時の各施設への提供については、市立病院や公民館等施設への無償譲渡という形ですでに取り組んでおります。今後は、ニーズのある他施設への提供も検討していきます。</p> <p>○図書館分館の利用の充実については、ご指摘の通り、課題が山積しております。広報誌の件も含め、実現可能な部分から改善に努めてまいります。</p> <p>○ボランティア団体等への貸出冊数については、個人への貸出とは別の「団体貸出」として100冊を上限として設定しております。</p> <p>○図書館予算については、限られた予算ですが、その中で、できるだけ多くの子どもたちに読書に親しんでもらえるよう、ボランティアの方々をはじめ市民の皆様のご協力をいただきながら進めてまいります。</p>

No.	御意見・御提言の内容（要旨）	意見に対する市の考え方及び計画の修正点（下線部）
11	<p>○ヤングアダルトへの対応について 計画の対象が「おおむね18歳以下のすべての子ども」とあるのですが、高校生や中学卒業後の様々な状況にある子どもたちへの取り組みがあまり感じられないのではないかと思います。市内には多くの高校生がいますし、有職・無職の少年少女、思春期特有の問題を抱えた多くの18歳以下の子どもたちが読書から生き方を学ぶ術を知らないような環境におかれている状況もあるのではないかと思います。読書への志向は、子どもと大人の中間地点にある「ヤングアダルト」への対応が最後の砦になるのではないのでしょうか。高校図書館でも読書に親しんでいる生徒はほんの一部で、すっかり読書離れしてからは読書指導が困難です。義務教育学校や地域社会と連携した読書活動の推進は高校生にとっても効果的ではないかと思います。</p>	<p>○「ヤングアダルト」への対応は、p10の推進の方策の「魅力ある良書を選定するための指導や情報提供」に「ヤングアダルト向けのブックリストの作成と活用」が含まれます。さらに、ご意見を踏まえ、p14の「推進の方策」を下記の通り修正します。 <u>赤ちゃんコーナー、児童コーナー、ヤングアダルトコーナー等子どもが読書を行うために必要なスペースの確保の一層の充実に努めます。</u></p>
12	<p>○高校図書館との連携について 市内の県立高校には専任の司書資格をもった正規職員である司書がおりますし、石巻地区の高等学校図書館ブロック研究会もあります。声をかけていただければ、協力や協働できることもあるのではないかと思います。市立・県立の別なく、学校図書館同士の連携や地域とのネットワークづくりに、賛同してもらえる高校図書館もあるのではないかと思いますので、計画の実施にあたっては、高校図書館にも連絡をいただければと思います。 また、それぞれの分野では様々な取り組みがなされているのだと思いますが、連携、連携と叫ばれているにもかかわらず、そのための体制が作られていないと思います。協議会などがあれば、その力が結集されて大きな成果につながるのではないのでしょうか。</p>	<p>○p10に示すように市図書館では、学校図書館との懇談会を実施しており、その機会を活用した高校図書館との連携のあり方を検討していきます。</p> <p>○子どもの読書活動推進に機能する望ましい連携のあり方については、今後も、関係の方々からご意見をいただきながら検討していきます。</p>
13	<p>○十分な財政確保の上での人的環境整備について ・図書館司書をこの推進計画案の中心責任者として専従にする事。その分、他に図書館職員を増員する事。案件の成功のために中心となる図書館の司書を専従にして活動に打ち込める環境整備は必要不可欠と考える。兼任で、これだけの大量の問題点を解決する事は難しい。 ・各学校の司書教諭のクラス担任を解き、専従にする事。名ばかりの司書教諭の現状を顧み、実力を発揮する機会を作る。 ・学校図書館司書を各学校に配置する事。学校図書蔵書量は、非常に少ない上、現在蔵書されている本も子どもに橋渡しする人間が不在の為、十分に活用されていない。この現状を考慮すると、司書教諭及び学校図書館司書の専従の活動は不可欠と思われる。あくまで父兄が構成する学校図書館ボランティアは、専門知識を持つ司書教諭および図書館司書のそのサポートとしての位置づけが正しいと考える。</p>	<p>○本推進計画は、市の部局を超えた「石巻市子ども読書活動推進委員会」が中心となって推進します。図書館をはじめ、幼稚園、小中高等学校を所管する学校教育課及び学校管理課、保育所や子育て支援を所管する子ども家庭課、乳幼児健診を所管する健康管理課、ボランティア支援等を所管する生涯学習課及び公民館等がそれぞれの機能を果たと共に連携することにより問題点の解決に努めます。もちろん財政確保の上での人的環境整備も手段の一つですが時間がかかります。しかし、目の前の子どもたちはどんどん成長していきます。今、子どもたちのためにできることから早速取り組んでいきたいと考えます。</p> <p>○司書教諭が、担任をすることにより、読書指導や読書活動の実践を通して、自らの資質・能力を高めることができ、その成果を、広く校内の教諭に啓発、指導することが可能となるメリットがあります。p10に示す発達段階に応じた多様な読書活動を普及・充実させる核としての活躍を期待しております。</p> <p>○学校において、子どもの最も身近にいて、最も影響を受ける存在は担任です。そこで本を子どもに橋渡しする人間として最もふさわしいのは担任だと考えます。学校職員への啓発・研修の充実を通して、子どもの読書活動の意義や重要性についての理解の促進、優れた読書活動や読書指導の実践力をはぐくむことがまず基本となると考えております。</p> <p>○学校における読書活動の推進は、学校教育計画の図書館計画に基づき、図書館主任を核とした校内組織の機能を高めることが基本になると考えております。</p>

No.	御意見・御提言の内容（要旨）	意見に対する市の考え方及び計画の修正点（下線部）
14	<p>○民間団体ボランティアへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設利用時の支援 <p>図書館、公共施設での参加者からの参加費徴収許可。当会では、非営利目的で年二回講座を企画しているが、現在、資料代程度しか集められず、常に赤字である。仙台市の図書館で行われるおはなしの講座と同様、参加者から必要経費を賄う適正額の参加費徴収許可を希望。また、図書館周辺の市や労働会館、総合体育館などの駐車場の確保の協力、援助等希望。</p>	<p>○いただいた御意見である団体の個別の事業展開のあり方等については、本推進計画の趣旨から本計画に位置づけることは困難であるものと考えます。</p>
15	<p>○民間団体ボランティアへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知広告協力 <p>市教育委員会経由の宣伝チラシが、各学校の職員、及びボランティアまで底辺隅々までに伝わらないで終わるケースがある。学校上層でストップする事無く周知徹底の要請を希望。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市独自の基金設立 <p>みやぎこども夢基金活用のような例が出ているが、それより小額で制約の少ない小さな企画運営を行える、民間会社からの寄付金募集や市民によるカンパなども含めた市独自の基金設立希望。</p>	<p>○石巻市子ども読書活動推進委員として、学校教育課も推進の役割を担っており、学校への周知広告協力の推進する環境ができております。ボランティアについては、今後、希望者を対象としたネットワークづくりを推進しすることで、情報提供等が円滑に進むような仕組みづくりに努めます。</p> <p>○基金については、推進委員会においても提案された意見のひとつですが、実現に向けては、多くの検討課題があります。「制約の少ない」という視点では、民間団体レベルでの基金の活用の方が適切ではないかと考えます。</p>
16	<p>○家庭での親子読書環境の整備について</p> <p>残業する事無く家庭での時間を多く取り、親子で読書活動する国がある。読書推進国をモデルとし、親子で読書する事の楽しさ、大切さを啓蒙する企業を巻き込んでするキャンペーン企画を。</p> <p>子どもたちは、保護者等に連れて行ってもらわなければ、そのほとんどが図書館まで足を伸ばす事ができない。親子で図書館へ行こう。と呼びかける事、親子が集いたいと思う仕掛けを創意工夫し、図書館が企画する。</p>	<p>○計画に示すように、幼稚園、保育所、学校、図書館等において、「子ども読書の日」、「子ども読書週間」及び「読書週間」における子どもの読書活動に係る行事の開催に努めます。これらの機会を通して、親子での読書活動の楽しさや大切さについての啓発活動も推進できるよう関係機関への情報提供を推進します。</p> <p>○図書館で開催されている子どもの読書活動推進に係る事業を「親子での集い」の視点を取り入れた改善・充実に努めます。</p>